

行政が発行し、住民の皆さんにお届けしている広報紙は、行政からのお知らせを伝えることを目的としています。しかし、それだけではなく、まちで起こった出来事を記録として残していくという役割があると思っています。

当時担当していた時期は、阿品台の廿日市ニュータウンが造成されて間もないころでした。人口が増え、新たなバス路線がスタートし、小学校も開校するなど、まさに「まちが動く」とき。そのときに感じたのは、今まさに「まちが動いている」姿を紙面に残したいという思いでした。

わたしが担当だったころ、特に気を付けていたのは、読みやすい文章と、1枚でも多く写真を載せること。担当課から出される原稿をいかに読みやすくさせるかが腕の見せどころです。また、「読んでもらう」ことももちろん大切ですが、「見てもらう」ことも同じように大切なことです。とかくスペースが空いてしまうと、そこにカットやイラストを入れてしまいがちですが、そんなときはなるべく地域に出て、今起こっている「出来事」や、頑張っている「人」の写真を撮って掲載することを心掛けて

ていました。とはいえ、役所の仕事は部署が変われば仕事はまったく変わります。担当になったとき、カメラの知識はまったくなく、一眼レフのカメラを扱うのにとっても苦労したのを覚えています。

写真では、その人の表情を大事にしていました。だから、いつも被写体に「もう一步前へ」と、近づいて撮ることを心掛けました。

広報紙づくりで必要なことは、先輩の紙面から学びました。その先輩が作り出す紙面は、心温まる記事が多く、しかも自分の足で探

し、作り上げた紙面でした。その先輩をいつも追いかけていましたが、追いつけたかどうかは自分では分かりません。

広報紙づくりは、答えの見えない世界。その時代、時代で最良の判断をし、住民の皆さんに読んでもらえ、必要とされるものを作らなければなりません。担当させていただいた4年間は、月に2回の発行に追われていました。しかし、まちの歴史を残す仕事に携われたことを誇りに思うとともに、その4年間はわたし自身の人生の中で、とても輝いていたと感じています。



豊田さんが手がけた昭和54年9月15日号が、廿日市初となる広島県広報コンクールに入賞(努力賞)。翌55年には優秀賞、56年には最優秀賞と連続入選を果たす。



昭和53年から4年間広報紙を担当  
とよた・のぶこ  
豊田 伸子さん

広報紙には、まちの今を切り取り、その姿を後世に残すという役割もあるんです。

## 中のページの色は季節ごと

現在の「広報はつかいち」、毎号表紙と裏表紙はカラー印刷ですが、これは割と最近で、平成19年4月1日号から。そして、中のページは2色です。

中のページの色は、季節ごとに色

が変わります。意外と気付かない人も多いのでは。ちなみに今月は「桜色」。今まで、夏は「青」、秋は「オレンジ」、冬は「緑」を使用してきました。今後、何色が紙面を彩るか、お楽しみに。

## 広報紙は永年保存

市役所の公文書は、規定により保存年限がそれぞれ定められ、保存年限が過ぎたものは廃棄されます。しかし、広報紙はまちの歴史を残す重要な、「文化・歴史的資料」という位置づけから「永年保存」とされています。

# 記憶と記録と、

特集  
Documentary and Memory



昭和43年4月15日号

本紙(8ページ)を1日に、お知らせ版(2ページ)を15日に、月2回の発行となる。写真は、お知らせ版第1号。



昭和41年5月1日号

B5版ヨコ型からB5版タテ型に。タイトルの文字も再び漢字に変わる。ページ数は変わらず8ページ。



昭和37年1月1日号

タブロイド版からB5版ヨコ型8ページになり、1カ月に1回発行に。タイトルの文字は第4号からひらがなに変わった。



昭和33年10月1日創刊号

タブロイド版両面印刷2ページで創刊。第2号は昭和33年12月31日発行と、当時は不定期だった。



昭和52年1月1日号

初のカラー印刷。ただし、表紙のみ。その後の正月号の表紙はカラーに。カラーでお伝えできないのが残念です。



平成2年4月15日号

1日号、15日号ともにすべてのページが2色印刷に。また両号ともにページは16ページのボリューム。



平成17年11月1日号

大野町・宮島町と合併を間近に控え、新生廿日市市として新たなスタートを切る特集を掲載。



昭和50年4月1日号

B5版タテ型から、現在の形であるA4タテ型に。1日号は10ページ、15日お知らせ号は6ページ。



昭和64年1月1日号

このころから、正月号では表紙、裏表紙以外に、中の見開きページでカラー印刷を採用。ただし、そのほかは黒1色。



平成15年3月1日号

佐伯町・吉和村と合併。それぞれの魅力を伝える特集が組まれた。この頃から文字を大きくした。

「広報はつかいち」は、昭和33年10月に産声をあげ、今号で1173号、今年で創刊55年を迎えました。これまでも、紙の大きさやページ数など、時代の流れの中で、変化を繰り返し、現在の形にたどり着いています。今月の特集は、「広報紙」。普段何気なく見ている、広報紙のことを振り返ってみたいと思います。

—特集11ページまで—